

平成30年度 第2回松本市博物館協議会 会議録  
(敬称略)

1 日時

平成30年11月26日 午後3時30分～5時まで

2 会場

松本市立博物館 2階 講堂

3 委員出席者

笹本委員、横沢委員、百瀬委員、村井委員、山根委員、飯島委員、奥村委員

4 事務局出席者

木下博物館長、中原基幹博物館建設担当課長、船坂基幹博物館建設担当課長  
補佐、土屋庶務係長、赤羽事業担当係主査、竹内庶務係主査

5 会議の概要

(1) 開会 (司会者)

(2) 委嘱状交付

(3) 博物館長あいさつ

(4) 職員・委員自己紹介

(5) 正・副会長選出

会長に笹本委員、副会長に横沢委員を選出

(6) 正・副会長あいさつ

(7) 議事

ア 博物館協議会の概要と松本市立博物館の組織について  
質疑なし

イ 松本市立博物館の課題について(平成30年度重点目標より)

(委員) 今、松本市内の中心市街地の活性ができていない。

松本には明治時代以降の古い建物が博物館施設を含めて沢山ある。他のところで、歴史的建造物群を利用した回遊性の創出が成功しているので、松本市も推進してほしい。

また、博物館施設は、地域の人たちを楽しませ、そこに観光客も楽しませてもらうのが理想なので、市民に愛される博物館を目指してほしい。

(会長) ありがとうございます。回遊性の創出は、博物館だけでは無理があります。松本市は博物館や他の文化財との連携が弱いと感じる。担当課だけでなく、様々な部署と連携し、回遊性を高める努力をしてほしい。

(委員) 回遊性の創出にあたっては、コースが既にできているのか、また、どのような構想があるのか。

(館長) 今回の質問は、旧開智学校を中心とした回遊性の創出についてお答えします。コースの設定はおこなっていません。構想につ

いては、旧開智の「教育」という部分で分館を関連づげができないか考えています。また、旧開智の建築家の立石清重を市内の立石が手掛けた建築物群と関連づげを行うことも検討しています。将来的には、「松本藩領ミュージアム」のように、広域的な回遊性も考えられると思っています。

(会長) 松本の文化の部分を大切に、観光部局と共に歩き回れるルートを作っていただきたい。また、普段行かないところにも是非行っていただけるような働きかけを行ってください。

ウ 平成30年度 博物館事業について  
質疑なし

エ 基幹博物館整備事業パブリックコメントの結果について  
質疑なし

オ その他

(委員) 金沢市へ行ったとき、公共交通機関が発達していろいろな施設を回るのに便利であった。松本市は市の規模も異なるので一概に言えないが、回遊性の創出については、公共交通機関との調整が必要だと感じます。

(委員) 松本市に入っているのに、博物館として対応していないところはどこか。

(会長) 合併地区で博物館自体がなくなってしまったところを指しています。私たち博物館協議会が目配っていないと、市側はどんどん統廃合してしまいます。また、博物館協議会が目配りをして、博物館の展示や収蔵物で合併地区のものも取り入れる必要があります。

(委員) 私たちが市民学芸員を立ち上げて、やっといこうとしているは、松本まるごと博物館構想を実現するために実施している。一般の人が質問したときに答えられる、そういったことが町のなかにたくさん存在することが一つの観光資源になると考えます。

(会長) 市民学芸員の活動は、観光のためだけでなく、まず参加する人自身のため、ということが大切だと思います。

(委員) 15年前、小布施町で観光関係のシンポジウムをしたとき、前の町長と今の町長が、文化振興課が必要と言って観光課がありませんでした。今は観光課がありますが。私は大学で、観光を教えています。本質をきちんとお客様に伝えることが大切です。観光は生涯に一度しか来ません。地域の人に愛されるところに観光客が行ってみたいのです。

(委員) 平成35年度開館予定の新しい博物館に対する市民の期待がわ

いています。私は、他に学都松本推進協議会の委員もしている。  
委員もそれぞれ連携するといいと思う。新しい博物館で市民が何を  
したいか今あら準備することが必要だと思います。

(会長) ありがとうございます。